



地域で水辺の環境活動を広めるためのポイント

2025.06.09



さとゆめ
LOCAL BUSINESS INCUBATOR

経営企画室 ディレクター 相原朋世

はじめに | 自己紹介



株式会社さとゆめ
経営企画室 ディレクター

相原 朋世

Aihara Tomoyo

経歴

金沢美術工芸大学 環境デザイン専攻卒業。

インテリアメーカーにてファブリックデザイナーとして商品開発企画に携わる。大手不動産会社が新たにホテル事業の立ち上げを機に、オープニングに携わり地域の魅力のPRやレストランサービス等マルチに携わる。

2022年よりさとゆめに参画し、企業のワーケーション推進事業や長野県小海町にて古民家ホテル改修のプロジェクトに携わり、2022年4月より地域プロジェクトマネージャーとして出向し、憩うまちこうみ事業を推進。

現在、能登半島の自社プロジェクトや函館市グリーンツーリズム事業などコンサルタントとして全国の自治体の地方創生に携わっています。

About Satoyume

株式会社さとゆめとは

MISSION

ふるさとの夢をかたちに

さとゆめは、「Local Business Incubator ～人を起点として、地域に事業を生み出す会社～」を、コーポレートアイデンティティとする、地方創生に特化した、伴走型の事業プロデュース会社です。全国 40 エリアで、計画策定から事業の立上げ・運営まで、地域に伴走しています。

“700 人の村がひとつのホテルに。” をコンセプトとする「NIPPONIA小菅 源流の村」(山梨県小菅村)、地域と企業の協働による保養地づくり

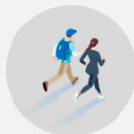
「癒しの森事業」(長野県信濃町)、町単独のアンテナショップ&地域商社事業「かほくらし」(山形県河北町)等、人を起点に様々な事業創出に取り組んでいます。

さとゆめは、地域に伴走する会社です。



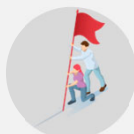
事業内容

地域活性化に関わるコンサルティング、地域活性化に関わる事業プロデュース



私たちは、ゴールを目指して走る
地域の皆さまの傍で、伴走し続けます。

「伴走型コンサルティング」、これが私たちのモットーです。



さとゆめは、「すべての人がふるさとに誇りを持ち、
ふるさとの力になれる社会」を実現します。



人口減少時代を背景に、“計画起点”から“人起点”への
事業プロセスを転換しています。

About Satoyume

株式会社さとゆめとは

PROJECT

NIPPONIA 小管 源流の村

「700人の村がひとつのホテルに」を
コンセプトとした村まるごとホテル

事業内容

- ・ 100軒の空き家を順次ホテルに改修
- ・ 村人が、ガイド・送迎・清掃等の
ホテルの運営に参画
- ・ 村人が祝福する「村まるごと
ウェディング」もスタート

「700人の村がひとつのホテルに」

多摩川源流に位置する山梨県小菅村は。面積の95%が森林と豊かな自然に囲まれた人口約700人の小さな村です。さとゆめは、小菅村で2015年に開業した「道の駅こすげ」の総合プロデュースを手掛けたこと等をきっかけに、人口約700人の村全体をひとつのホテルと見立てる「NIPPONIA小菅 源流の村」を2019年に開業しました。この分散型ホテルは、村の古民家を宿泊施設として再生し、村人がスタッフとなって運営し、食材も地元産を使用しています。滞在者は村全体を巡り、自然を楽しみながら村の文化や暮らしに触れる体験ができ、観光を通じて地域の活性化に貢献します。この取り組みは、過疎化が進む村を再生するモデルとして全国的に注目されています。



About Satoyume

株式会社さとゆめとは

PROJECT

Satologue

「沿線」を「まるごと」楽しめる「ホテル」
JR東日本と協業し青梅線をはじめ、各路線で展開中

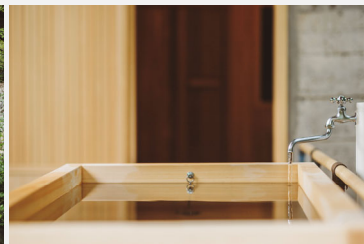
事業内容

- ・奥多摩町にレストラン・サウナ施設を開業。
2025年5月宿泊棟も開業。
- ・「沿線まるごとホテル」プロジェクトが
Forbes JAPAN Xtrepreneur AWARD 2024「
地域活性/モビリティ部門を受賞



「沿線まるごとホテル」

JR 青梅線にて、沿線自治体（青梅市、奥多摩町、小菅村、丹波山村）や地域住民・事業者を巻き込んで、沿線に点在する空き家をホテル客室に改修し、沿線全体を一つのホテルに見立てる沿線活性化事業「沿線まるごとホテル」のサービス開発に取り組んでいます。東京都奥多摩町に2024年5月「Satologue」のレストラン・サウナ施設を開業し、2025年5月に客室を開業。なお、レストラン及び客室を含む宿泊施設の設計は、瀬戸内海に浮かぶ移動式ホテルguntô等を手掛ける堀部安嗣建築設計事務所が担当、ランドスケープはevam eva yamanashiの外構等を手掛ける空庭・彌永秀一氏が担当しています。



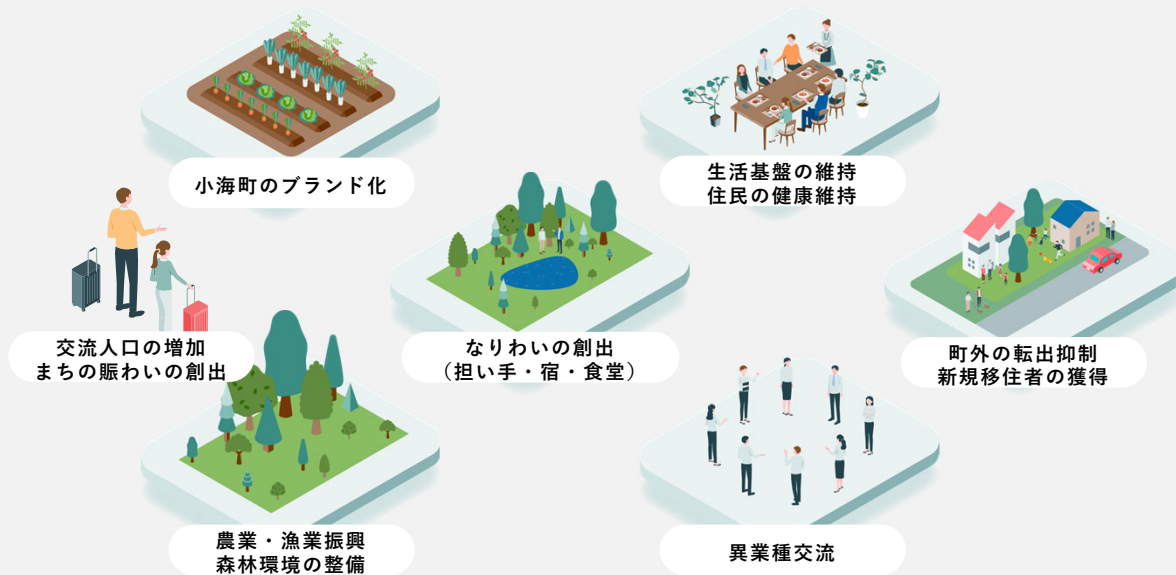
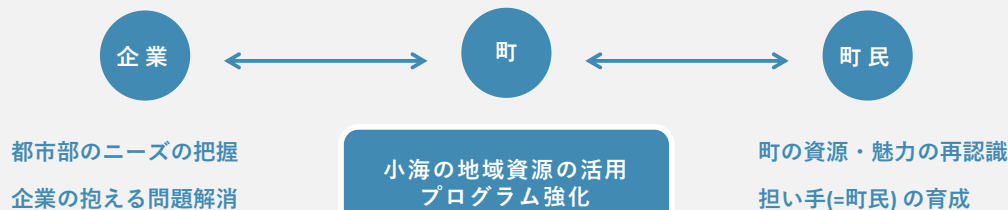
長野県小海町

令和7年5月現在

人口は約4,250名
(約2,000世帯)

小海町は西側に八ヶ岳連峰、町の中心部には千曲川が流れる風光明媚な町です。

夏の冷涼な気候により、白菜、レタス、キャベツなどの高原野菜の生産が盛んで観光のシンボルである松原湖高原は、夏は避暑地として別荘地やゴルフ場の利用者が訪れ、冬は全面結氷する湖面でワカサギ釣りを楽しむ観光客で賑わいます。





Re・Designセラピー

小海町の「Re・Designセラピー」は、
リラックス、瞑想、コミュニケーション、デトックス
の4つの要素を組み合わせ、はたらく人の「気づき」
にアプローチします。



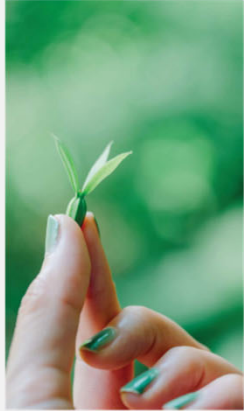


Program #01 - 自然を感じる -

松原湖畔を町民セラピストと歩き、森を全身で感じるティータイム

小海町のシンボルのひとつ、人々の憩いの場である松原湖は北八ヶ岳の豊かな自然に囲まれ、様々なレジャーの拠点となっています。

森林セラピーウォークの途中では湖畔の休憩スペースにてティータイムを提供します。森の中で大きく深呼吸することで、良質な酸素を多く取り込み、心を落ち着かせるティータイム。自然の恵みのお茶、手づくりのお菓子とともに楽しみいただけます。森に包まれ、ゆったりとした時間をぜひ満喫して癒しの時間をお過ごしください。



Therapy Walk



LOCAL FOOD

Program #03 - 食を堪能する -

地元食材を使った体にやさしいメニュー

高原で育った新鮮な野菜、清流で育まれた魚、昔ながらの製法で作り上げた心を込めた食材を使用した地産地消料理で、心も体もリセット。

体調がなかなか優れないとき、気持ちもややもやもやしたときは、全部まとめてデトックスしましょう。



Yoga Meditation

Program #04 - 向き合う時間 -

自然の中で、自分を見つめ直す

瞑想は自分らしさを見つめなおす時間。森の中で深呼吸をすると、いつもは感じられなかった自然の音が聞こえてきます。もうひと息、深呼吸をすればいつもとは違う風景が見えてくるはずです。

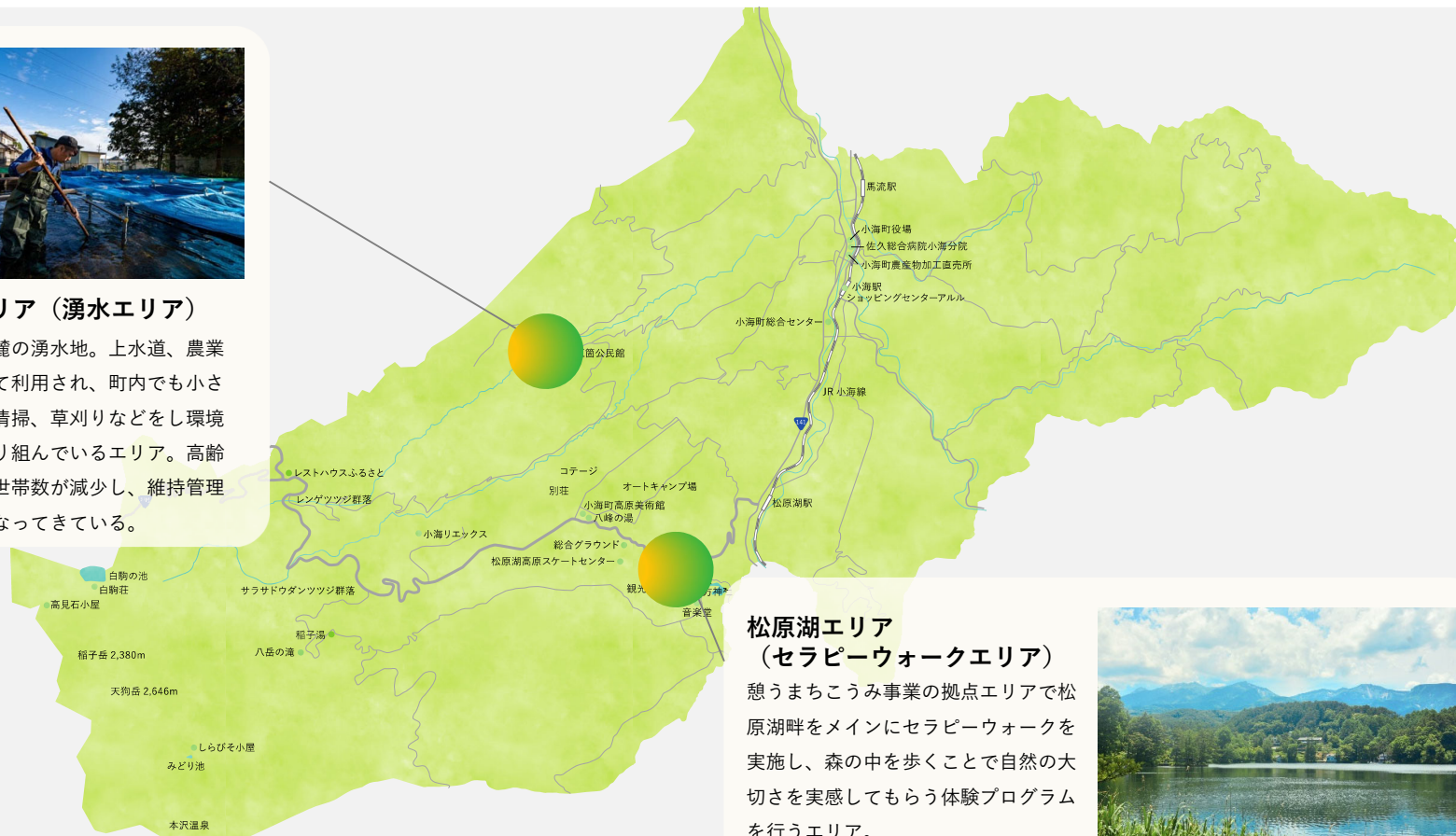
自然の中で行うヨガは、さらに深いところで、自分の心からだに向き合う時間を手助けしてくれます。





五箇エリア（湧水エリア）

八ヶ岳山麓の湧水地。上水道、農業用水として利用され、町内でも小さな集落で清掃、草刈りなどをし環境整備に取り組んでいるエリア。高齢化により世帯数が減少し、維持管理が難しくなっている。



松原湖エリア （セラピーウォークエリア）

憩うまちこうみ事業の拠点エリアで松原湖畔をメインにセラピーウォークを実施し、森の中を歩くことで自然の大切さを実感してもらう体験プログラムを行うエリア。





水生生物観察前の講義



サンショウウオの卵を発見



サンショウウオの卵を顕微鏡を使って観察



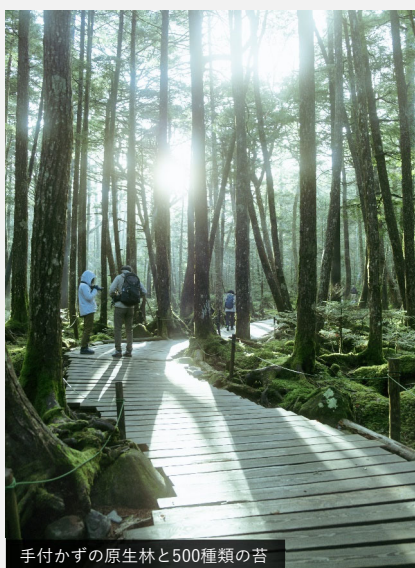
顕微鏡で観察する対象の採取



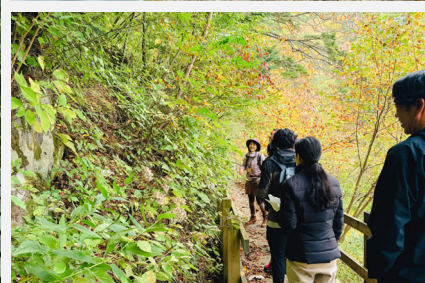
セラピーウォーク途中のティータイム



ルーペで葉脈を観察



手付かずの原生林と500種類の苔





里とつむぐ、
物語。

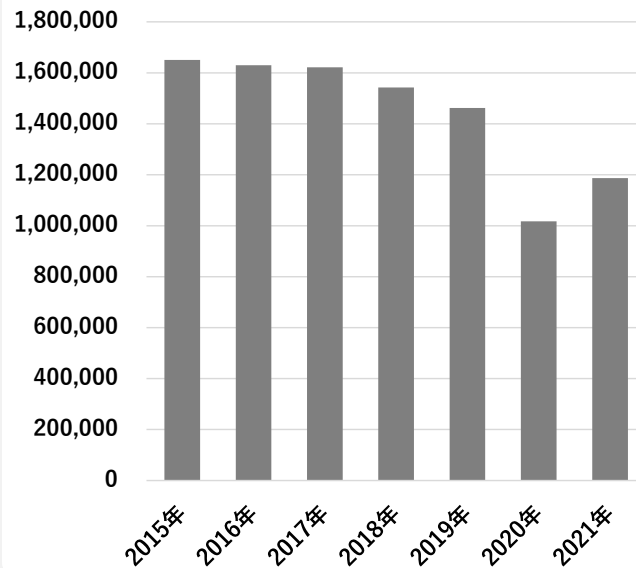
Satologue.

沿線まるとホテル 事業の舞台（第1弾）

- 青梅駅～奥多摩駅のアドベンチャーライン区間で事業化を推進。
- 青梅駅と奥多摩駅以外は無人駅、それらをホテル事業の中で活用。



アドベンチャーラインの降車数(人)



沿線まるとホテルの基本構造

- 集落ごとに、無人駅を「ホテルのフロント」、古民家を「客室」、住民は「キャスト」と見立て、無人駅や古民家の管理・接客を、集落住民が行う。
- 住民のアイデンティティを守り、かつ金銭的メリットを発生させることで、自律的な運営を実現。

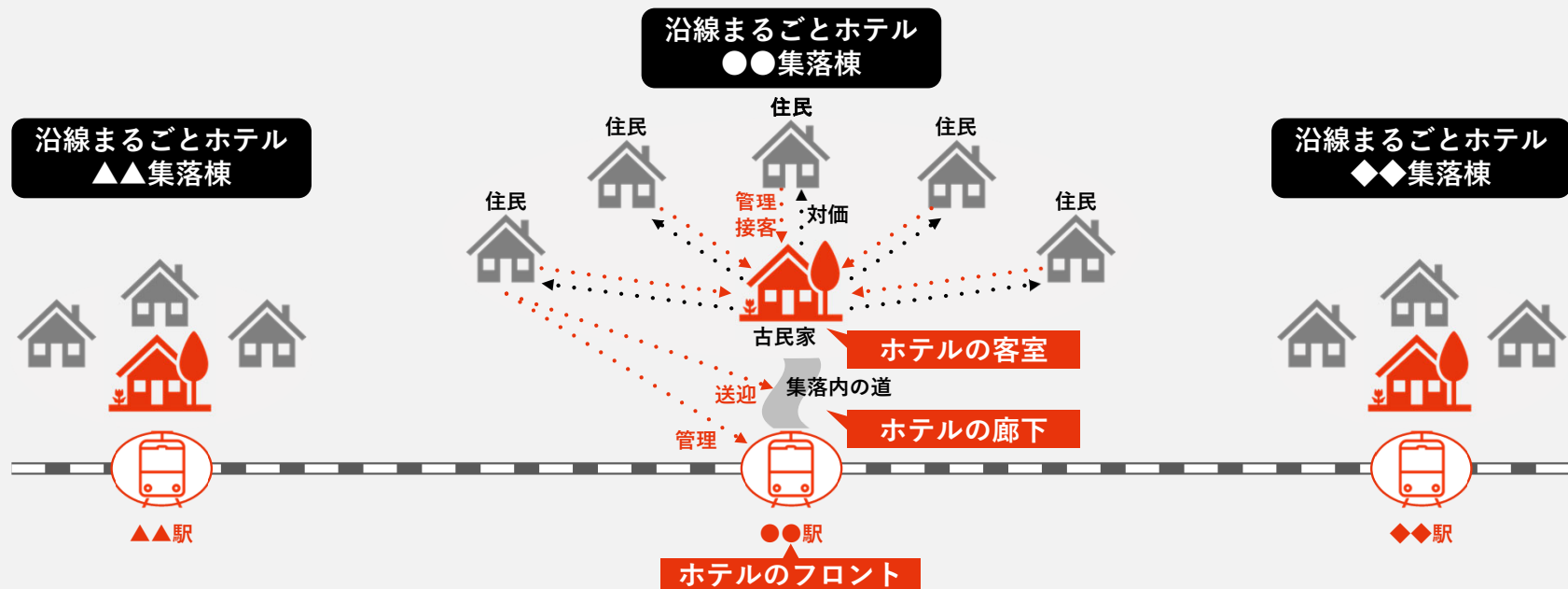




Photo by Kazuhiko Hakomada

里とつむぐ、物語。

沿線まるごとホテル

ここは、JR 青梅線の「古里駅」と「鳩ノ巣駅」の間の「棚澤」と呼ばれる集落。北側にJR 青梅線の線路を、南側に多摩川をのぞむ広い土地に、Satologue（さとろうぐ）はあります。2024年5月16日より、レストラン棟「時帰路」と、サウナ棟「風木水」がオープン。2025年春には宿泊棟が完成し、ホテルとしてグランドオープンする予定です。

この敷地は昔、奥多摩で栄えた林業の要所で、木材を江戸まで流すための筏を組む土場があったそうです。敷地内には、大きな養魚場跡もあります。収穫までの周期が長い林業は養殖業や農業と兼業されて営まれてきたといいます。さとろうぐは、これら沿線にひろがる里山のいとなみを受け継ぎ楽しむ「沿線まるごとホテル」の最初の施設。薪サウナや焚き火体験、地域食材をふんだんに使用した食を通して、木や森や自然と、人のいとなみにつながりを取り戻すことを目指しています。養魚場跡は自家農園やビオトープに生まれ変わり、庭にはワサビ田もあります。地域の方々に支えられて再スタートした土地のいとなみを体感しに、ぜひ青梅線に乗ってお越しください。



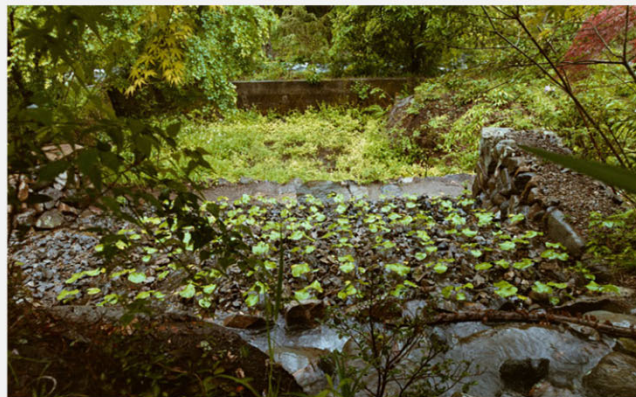
この土地に水が流れることで、
外界とのつながりが再び生まれ、
生態系が豊かになっていくことを願います。
その流れはきつと鉄道と里山との
関係にも通じていることでしょう。

フィールド監修 彌永秀一さん

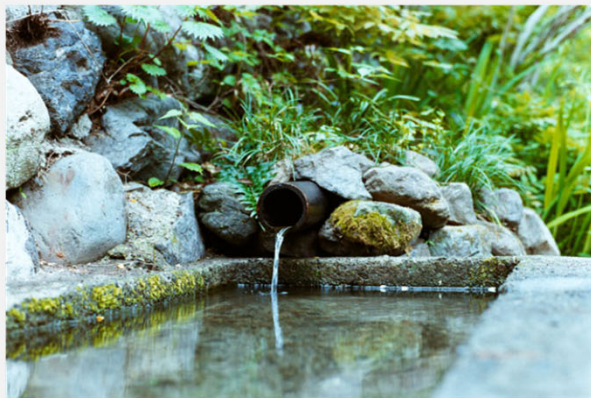


私たちは宝物のようなものに
囲まれて生きていますから、
そうしたものに気づける場所を
つくりたいなと思いました。

さとログの建築家 堀部安嗣さん



地域のわさび農家
角井兄弟によるワサビ田



敷地全体を水路が巡る



Landscape

お庭

里山のくらしと、
生態系をそのままに。



養魚場跡の生け簀に、
土を投入してつくった自家農園。
底に砂利と炭を敷いて水はけを良くし、
その上に敷地内で伐採した枝葉を、
一番上には地元の土を敷きました。
コンクリートを生かした
巨大なプランターの中で、
安定した土壌の状態を保つための
実験的な試みです。

Field Map&Story



自然の摂理だけで敷地全体に水を運ぶ、養魚場の給水システム

さてローグの敷地内には、大小全部で10個ほどの生け置き場があります。ここでヤマメなどの養殖業が営まれていたのが60年ほど前。当時

はこれらの生け置き場には水が溜まっていて、魚も泳いでいました。ご近所の方は子ども時代、魚がいない生け置き場で泳いだ思い出があると思います。ところで、こんなにたくさんのお水、大きな生け置き場に、どのように水を溜めていたのでしょうか？

実はこの敷地には、川の水を引き込んで、敷地全体を巡る水の通り道が設けられているのです。道路を挟んで北側にいる不動滝から、地下を潜って敷地全体を迂回するように水を流すパイプや側溝が設置されています。動力や電力を一切使わず、勾配だけで、全ての生け置き場に均等に水を溜めることができるシステム、一つ

生け置き場が溜まった、オーバーフローして次の生け置き場へ水が流れ込み、全ての生け置き場に水が溜まった、最終的にその水はまた川へと合流します。川の流れを聞き取り、その流れに沿って魚の養殖などのいとなみをつくり出し、また川へと水をお返しする。このように、この地域では昔から人の暮らしが自然と絡み合うことで、里山独特の豊かな生態系が形成されてきました。例えば、人のくらしがあることで有機質が増え、それによってカワニナが主恵し、それを餌とする虫が増える、というように、この水の通り道を整え清掃して再生させたのが、現在のお庭です。新たな庭でもその水流に沿って、ピオトリノやサビ田が運営されています。巨大なコンクリートの建造物は、自然と相反する存在に思えますが、そのコンクリートすら土にのまれ、苔むして美しく存在し続けているのが、この土地の歴史。元々の土地の姿を生かし、人と自然が共存する里山らしい、くらしのあり方を模索すること、それが、さてローグがこの庭で行なっていく実験なのです。

01 地域の課題を物語化し、 価値を再編集する

地元住民の「昔の話」や「知恵」を
聞き出しながら、地域に眠る自然の価値を
言語化することが重要

02 保全を体験資源に変え ただの自然では終わらせない

自然体験を通じて人がどう変わるか
誰かに話したくなる体験コンテンツに昇華
そのために適切なガイド育成も重要

03 よそ者・若者・ 地元民の三位一体

知識を持つ外の人が、
誇りを持つ地元の人と
会おう場を意図的につくるのが大切

04 滞在・宿泊施設との 連携で「面」の展開へ

ボランティア活動とせず、
保全活動と経済循環の両立を目指す

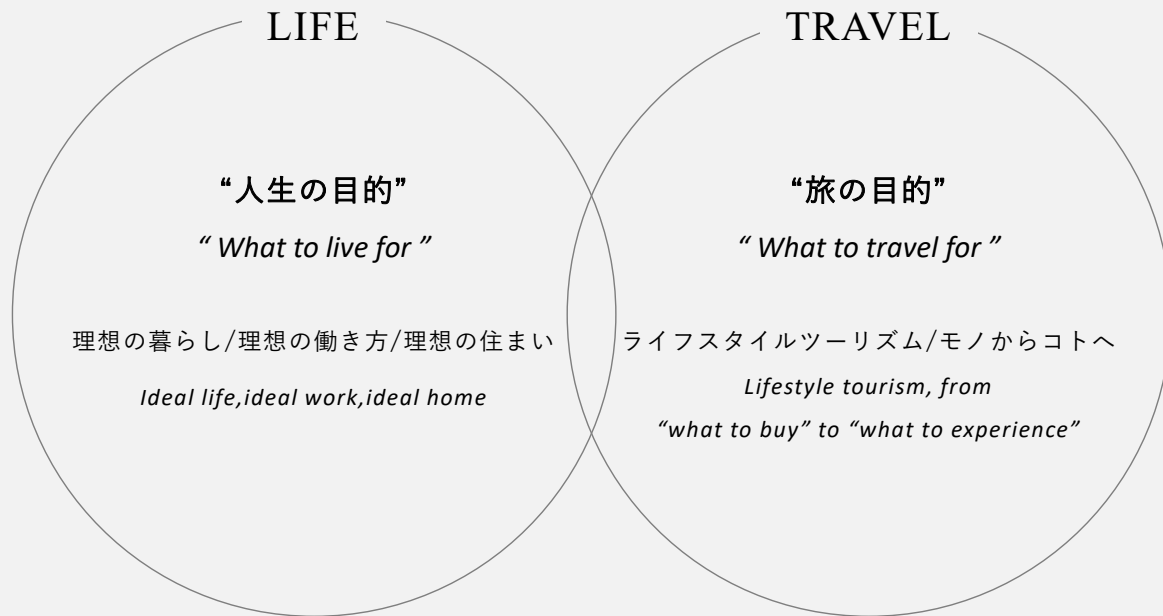


05 さりげなさと ビジュアルは高品質に

環境全面ではなく、
暮らしの延長線上にある豊かさとしての
水辺をどう自然に伝えるか

さとゆめが考える水辺の環境活動を広めるための要素

ライフスタイルツーリズム、モノからコトへ 誰かの日常（暮らしや人生）が、誰かの非日常（旅行）になる。



Point

さとゆめが考える水辺の環境活動を広めるための要素

「ふるさと」の定義

「ふるさと」とは、
その人の「情緒」が
形成された場所。



「情緒」の定義

「情緒とは、
野に咲く一輪のスマレを
美しいと思う心。」
(数学者・岡潔)



さとゆめが大切にする価値

その土地にあるモノ・コト・ヒトの「豊かな情緒」にふれること

「ふるさと」になるプロセス

「豊かな情緒」にふれる。

01

情緒が形成された時の
記憶の断片がつながる。

02

懐かしいと思う。

03

また来たいと思う。
帰ってきたような感覚になる。

04

その土地が「ふるさと」になる。

05